KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
Kodak
LICENSED PRODUCT
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black
Inches
Centimetres
中村俊定文庫
文庫 18
727

京都烏丸通下立賣上ル町
橘栄堂善助

中村侯定文庫

はしめりて舞ハ三番叟の人寿ながら
曽我兄弟の和をうつして家督をつぐ
ゆゑなりとて昔らくの浄瑠璃を
またも手綱にかけく業して今年
昔年今年迄凡十七回忌の
時をむかへ舞うた事ども
人の浄瑠璃業書延紙ハ料理など
なりと興ありてその所作のゆへ
らく此ほつてら道芸の其外

從是ハ其の筆紙をもつて加筆して浄く
読浄写り如き者をとらへ物かく
はかなしものとせし利欲にある
ならひも能をしかけ急の難儀
業道をもつて身をまかせ興を
とめ極印さるゝ人形とやさ舞え
子孫へ出たちのふんとうめい会て
皆様の天下をゆかりすいも
万事能く在りの道程をすまいる

つるさとの秋の夕とゝなりぬ

寺部流俳諧
秋興百韻歌仙

その　きゝ雨はらゝ　蕉の葉と
百年の一白分まとる　我ならぬ塔ゝ

アノ月よむゝ　我八今　東雀
このむしよ我を泣ゝ　夕べの虫　有中
園とつふるもゝ月の十七夜　兎仕
ゝゝゝゝ　ゝゝ　ゝ　ゝ　森田

七月廿六日源立寺佛お通夜し俳諧
源山本ゝ同　すゝゝ梅の花　百中

ひさしくとゝまりぬるそのゝ子雀　六位中

時雨降の露うちはらひ庭遠て　自樂

うゝ敷なき身にも世かりうゝ花

かゝる風に吹散けたる月の秋　中

露乃やうなるかゝを投出す　〃

清水のほとりに新酒酒のひ　樂

かもめに似たる作る蔵笛　〃

すゝきをうゝ敷ふすまを衣　中

清水のほとりにうきあうつき　樂

かゝるうゝ雲の行うく流さい　中

すゝきを敷なるゝもゝの雲　〃

うゝ敷をなんの先もなく利義し　樂

大事かゝる風　〃

和歌の箱根の月のさゝのゝを　中

かゝるゝ敷をなくうゝ花　〃

陀羅尼尼ゝむ寺もゝ花櫻　樂

こるもの〳〵ちるもつらしきさま

同廿七日　法華院参

鮒魚の長さつくらぬ家もなし　自樂

志賀院より明けの月　進行

ある花門乃桂も秋の末にて　斗入

宮〳〵法〳〵く満都なる　有中

春又入乃梅の木枝を寫すつけ　行

見〳〵う陣ちふの むらゐ　樂

蕚の靡のみとそそそそ　中

塀をふ由えて見ふふふ　入

屋〳〵とる法引出す東や法　樂

ゆゆと金 佛のすてられをす　行

打もふふうすきる月も宮中　入

ををきしぬの風ちふ法　中

ちふ物なれてるる年さへ　竹
小野すまをつゝ濃りて　樂
鶴すみ家ゝ成る物の舟　中
面まもゝ待て菊代をかゝく　入
三月ゝ花ゝるるとゝ云ふ　樂
屋をひく紙子の節ゝる物　竹
ゝもなき鶴ゝ事ゝる佛達　入
ゝゝ時のいとゝたゝねる　中

ゝの中を物ゝ寄るなゝて　竹
重ゝなるゝゝやゝゝのゝ行　樂
なゝゝゝふゝ梅ゝゝを写ふる　中
菊ゝ入れゝ節ゝゝる　入
足ゝの思ふゝ物ゝ長富
ひゝゝゝて八ゝんの入　竹
松風ゝ行ゝるゝ仮ゝゝ　樂
いゝゝゝて迷る犬のゝ　中

さうつきをねがひ出されし言の葉　曙墮

なりとわりていふこゝろ　斎

なくなるのりよ　花宮雀　竹

ねむりをさのふのうそんのけ　樂

さくやこもきさきをんそうをかける　中

見知らぬ鳥て名をわすれる　墮

ふる首花ハうらぬさきたて　斎

鶯のおやはゆるたきるものね　竹

主義

夕庭の萩ようちしく板戸かな　曙墮

白萩や根ざしのやをつまさうれ　淺生

いくとあを接してをりる百の花　映宗

翌をいふハよるをたちるさきをかな　芳尺

花をさをハ生てゆくは秋もゆく　徳海

わのさきをうをうをうをうをうを人のさうこ　長葉

萩おれハ花るよりをうを徒をうを　聖松

山ぢやうたちはうもう　青川
ちつうきのむらけよまさる椿うき　買月
江のうちやあらしよ別し梅の花　方明
はるゝ山やうちよつてたまちる　松兄
窓ふゝく吹きまさる萩の花　凡紀
梅もうれ枝の持うり梅の花　山皐
れゝや河内のむめのうち　布舟
秋月梅うちようる山ふかる　梅路

見ふるすハ人ゝよりうあと梅花　十邑
幸おのゝふるもおりゝ山さくら　藍富
美の波ゝよ梅て仕舞ゝり花ゝり　秋冒
ゝゝゝゝや船の春のちゝゝゝし　蓼雪
かゝ山家もつ風ゝ梅花　遠行
ちつうきの春ふるうゝ　椽　東夕
春きあゝ花まちうゝの梁　百人堂
紅ゝよ春ゝ宵の菜汁　士朗

そそもちるさくら　雲常
ふるさとよ二月なかばの　初櫻　越志
さ雨くらよ蹠跡のたなびきそめる　五来
糸柳よ櫻ちるまであめ　山　瓦全
曙をさそふ似るを初ワラな　乙二
七くさや新たてみの宮　清女
かなうめのかしらよむもふあをひ　岱李
かきねをる月の花ほさよ義の茅屋　大ふ

唐崎ハ春もをしむ萩の花　来山
こゝろよく不二をみる日の尾花ぶ　吐よ
山ふきのかをとゝむ面の唐うな　大阜
ちる花のひまなくゝゆと山さくら　栗堂
茅蔦てたろうよ　ゆぬをこる一　半倫
さきよりきのふハちるに初さくら　鷺雪
つゝぬいて月も出さりもちち　山　面塘
てふくのふゝ義一たる椿ハ　嵐仙

あさ茶くしや茶筅ハ屋一打ハ拾ふ　一茶

茶の庵たゝくもこゝの面　草人

祇うる　梅のたもとや宗さき紅　素路

さくらゑやなえてふるの新屋　左屋

山ゐを　ゑよりはいぬひくさ　仆　二の董

山さくらゑるゑ出ても　葉　ちり　巣兆

ちつさくやゑの上ますちるさくら　恒丸

さくもちるゑたゑのさくゑ仆　椿堂

香

なつかしきかきかきやさくの香ふ　有中

ちのこめや資ハ梅うゑ　つちゑ　松　屋風

梅のこゑちいさかるる白う仆　亨

つ雪ゑ降ゑあるぬ白うゑ　芹水

梅うゑ　のこくくしさや霞の月　雪園

ちう梅や月のゑ新ゑ　咲ちめて　芝雀

梅つよ　梅うゑ　晴ちゑ　晴ちゑ　嵐仆

たゝ梅ゝ花ゝ行ゝ ゝ 世業
うゝひゝのめてゝゝゝゝる山ゝ ゝ この郡里
はやり大ゝ 深の白ゝ行ゝ 宿 桃下
みゝ人ゝ 昌ゝゝゝゝゝき白ゝ 素
うゝひゝの白ゝゝゝゝゝゝ屋の窓 竹有
誉の ぬゝ人ゝゝゝゝ 冥変
ゝゝぬゝゝゝゝゝゝゝ 時る 五明
こゝゝゝゝ 白ゝ胡ゝ 丁江

ゝゝひゝゝる 寂のよりひのあゝ 文石
うゝひゝする 撰ゝゝゝ ゝ郡 乙因
春ゝなゝのうゝひゝなゝゝゝ 青橋
時ゆゝゝゝゝゝ 時る 阜池
ゝゝゝゝ ゝゝ 米虫
ゝゝゝゝゝゝゝ 柳荘
春の ゝゝひゝ 原 遠斎
ゝゝゝゝゝゝ ゝ 寸学

せとゝぬ糸をりをきくの花　吾長

松の戸も風もとなえぬ業花　眉長

くゝひさの枝ゆつるる鶯　梅麦

まゝ海よりたのもしてゆ日ゝ那　白醉

秋

あゝそゝとハやそちりあなり初水　自樂

梅切をハ人〳〵もたちそ秋の上　猶る

ゆく秋やのとちなるあれのそる　如毛

まの水猿子袋を追おりを　礫一

やはふきやあの屋よりまの月　暑雨

山秋のそとハそてゆくゆそる　五芳

さゝ〳〵さや汐のうそうす三月新　眞也

あるやうすみかるとハうい決む・如流
海よ入　日ゝ　たゝ　ゝゝて　ゝ　宣巴
松風と共ゝふる落葉哉　漫く
秋ゝ　九月尽　ゝゝくの　月庵
聖ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　棋道
山きゝ　ゝ　ゝ　ゝ　来船
去ゝ　ゝ　餞　ゝ　蕪市
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　昌三

ゝゝゝゝ　一々
ゝ　ゝ　ゝ　南尺
やけ　ゝ　ゝ　溪藻
松風ふけ　ゝ　桐栖
法　ゝ　ゝ　月の面　素秀
名　ゝ　ゝ　ゝ　伯先
ゝ　ゝ　ゝ　升六
ゝ　ゝ　ゝ　南山

ふるさとの方をたのむ人もなく行かた　大暑
夕山の猫あらはれてさ月かな　南炎
月をまつ水をかをる風　蒼軒
神もうれふるこの花　桜の雫　左琴
むらさめのふるまつてゆく田原　五調
海をさすとは時雨ぬく　子曰人
落ぶやまてく秋ふる雪の　山芳
塔の陰やとしはとまるまつ

海をまつ水をかをる風　大呂
雪の涯をてる海の月かな　月素
ちらちらや時雨ふる夜の雨　行風
一本の花一面の花の花　東子
さしりとて海よりの月や　椎長
ひやひやと坂屋かるぬるの月　花洲
一口にてふる時雨かな　五貫
俳ゆきのちよかゆく春の雨　丘高

[illegible] 芭蕉
[illegible] 凡坊
[illegible] 岩菅
[illegible] 三夕
[illegible] 東古
[illegible] 和田栖
[illegible] 文北
[illegible] 美公羽

諏訪

[illegible] 長斎
[illegible] 樗堂
[illegible] 志舟
[illegible] 昆明
[illegible] 春眠
[illegible] 馬京
[illegible] 素省

みやはるとなるつの時を見るを　東門
ゆくとしや系よるふん親こころ　青波
桐一葉二とそて月よる　桂五
つらて林八月ある之ものの尾　五寅
板おそ水ろう亀ろ　因　蕉雨
懸の巣よいろのなをけ係ル　苔尾
ろよ人を松ろ事の凡　素槃
懸のうねく懸ろ水ろの秋　呉来

仙人廉房の小貝危海　琴臺
こもる松の三蓬ちやをりくます　楽鉞
をく廉の表を人よ孫をくれ　呉山
出を八月八日中秋いねむりき　昊二
松の林所のおくまて行の猪る　周泉
紀ろよ書みて海　世筆　宗石
こかろの絵よ吟るものしな　月居
みの山をろるをて貴す也　双南

[illegible]　其堂
いなつまや所々通の所の清流　俊彦
[illegible]戸城の林と称する　百池
[illegible]の月　ひつておるか　空阿
[illegible]百姓　午心
[illegible]　鯉　巾太
[illegible]　丈尤
[illegible]　斗睡

[illegible]　春云
[illegible]　二崔
宮古[illegible]旅[illegible]　万井
本堂[illegible]庫裏[illegible]柳の[illegible]　冥々
[illegible]　朱美
[illegible]山[illegible]　柏翠
[illegible]　國村
[illegible]柳[illegible]　九十
[illegible]柳[illegible]
[illegible]

四月や牛をら持一隅の家　子也
角まりや大和河内を女こうち　重厚
蓮葉をかさるるかたくしに　其圭
ちられていくしかのそらく　方中
ちらもうちちよ居らるぬ日和　其成
なつうしの形ふやうつちをと　田禾
いもと又月をるゝ入り沒てゆく　士卯
このろよ蔦をるとの水の沒　南汀

六月　雲は月表面ふのうきを松ふ　杜厚
麻おきのゆめ一ふき柳う邪　而東
ひよろくとゆるあらはるつ蔦の鹿　ふち丸
おうすむ汁加を邪て日和うな　谷函
侍んぢのおをあ所を宮うを　天尤
ろ河よ大家蔦を着をうらふ　雷角
舟中
ふうん蔦て蔦をを紀て月見ふ　斗入
人を待うきうりみする紀　越雪

散柳略あちらこちらに八十
姫君の忍び合ひ孫乃家懐洞
ちさきの鶴日さしくるまの藤と人
家の板ちはしの[illegible]ちらこぼれ玉屑
却日ろ板や背手よりゆる山の形岳輅
拾くさきこみ思ひをる富士の山芦涯
大原女のきつ仰てこもりし郭公千歳
さしこ人扇さしくしこもりし春懐

[illegible]仏仏川[illegible]葵葺
仍先の人なさいもをさをを尺丈
鬼鞠して本のめさせ陳の[illegible]玉帽
めつそこる風を吹ても辺に掬昭
宮殿てこもれ柳よちこりわ拾玉
昭ぬ板のそ可[illegible]の[illegible]宮東
こ[illegible]ふ板さなし[illegible]国ち屋堀
まるる日の柳よりすむ[illegible]八風

春雨の笠にもたまるすみ　雄渕
古義長やふるの中も雪の巨　渓村
小宮のもりもるや秋の霧　道彦
一むらのまつの夜明のなくあるる　海東
林の野く霧深しして枯よりて　梅拙
さまざまの木の葉の下に小さつき　奇渕
入るるとなんて居るや切とて　宇洋
さらの木を見ひ嶽して揺らう　綺石

かのとゝ絶わたる柳かな　井眉
多川や人を行きるる夕日かな　浜上
霧の夕ゝよ秋の風音を立　木白
嵋しうとゝハ絶れとての川　水几
灯の影のうたるあさきの宿　民兎
ふるさとをとゝて酌る鹿の子小　又峰
地名月の白きよりあてたゝ　其白
八幡や高井よ高ふ鮫　雀　寸来

賀たかむ孫多ゆくらまの香　壁天

垣あるとてくもゐ嶺と知るるを　るる

名だたつや稀なるふ舟の棹　海賀

のちの人のおくるるあつさ小　壁泉

蟲むしやいぬのやうなる雀　梅間

めるまて秋そ来る夕の里　一草

所々の松の一かつらをのるるり　嵐光

ふけの大きくるる　秋湖

ゆく末の年の上の年に　椎巳

黄くき紅くなる毎の風　竜潮

梅柳あるとハ春ふる事乃月　暮井

まて居れハ秋ふる月の光ふ　兎玉

追加

百中く十七年をいなつま乃　大江丸

十又七つ年掛ふ歩回　踊ふな　竜笠

兵を指揮を挿よつけていろの
兵名よ給てうつもはきひ
友ひとのもおもひ出うよ一倉三ゐ
のまうひ皆むーをふうろ
さーのひうよ為て行も古今
の人うをいひつる中よ武蔵の
赤地玉集のまさうの宮先
こゝりよたのうをうちたる

ふれ うの海の扇よ為を摺く
うのうくいうくる
うのうひもよするのにきをかきねきて
昔のたもうに陳うこねる
十七集のむーをものふも
百五十里のあまうをうるも
おなーうのまうとよさう
りとてすうる一のうをー

そもそも此伝のうしのうけよ
る　侍る
享和三七月　有中

文化下乗二月十三日
晴日菴　従下位
三品内